

HANSHIN EXPRESSWAY COMPANY LIMITED

2021年3月19日

## 4月4日(日)から阪神高速の交通管制システムが新しくなります。

阪神高速道路株式会社(大阪市北区、代表取締役社長:吉田光市)は、2021 年 4 月 4 日(日)より新たな交通管制システムの運用を始め、お客さまへの情報提供がパワーアップしますのでご案内します。

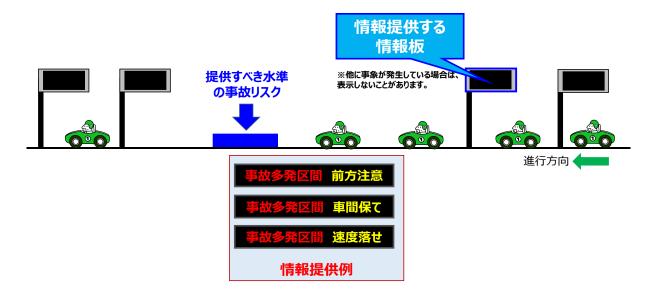
阪神高速の交通管制システムは、交通状況を把握し、情報板などで情報提供することにより、円滑な交通流を維持し、安全で快適な走行を確保することを目的に導入しているものです。今回システムを更新し最新の技術を用い、さらなる安全・安心・快適な道路サービスを目指してまいります。

- 1. 運用開始日時 2021年4月4日(日)午前0時
- 2.交通管制拠点 大阪地区:朝潮橋 交通管制センター (大阪市港区石田 3-1-25)

兵庫地区:京 橋 交通管制センター(神戸市中央区新港町 16-1)

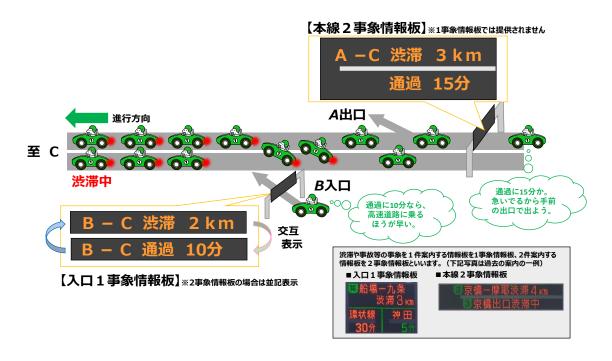
- 3.新たな機能
- 『情報板がパワーアップし、よりきめ細やかな情報提供により、お客さまの快適な走行を支援します。』
- ① 『高速道路会社で初めて、事故リスクに基づく情報提供を開始します。』

事故リスクとは、ある時点・場所における事故の起こりやすさのことを言います。阪神高速では、現在の天候や交通状況に基づき、事故リスクをリアルタイムで算出し、リスクが高い場合に注意喚起情報を提供する仕組みを高速道路会社で初めて導入します。これにより、お客さまの安全運転をサポートし、事故やそれに係る社会影響の軽減に努めます。



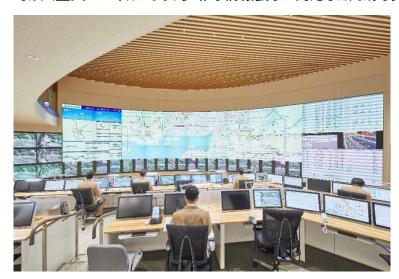
## ② 『渋滞通過時間の提供を開始します。』

本線および入口情報板で渋滞区間の通過に要する時間を提供します<sup>※</sup>。従前より案内している「渋滞の長さ」に加えて、「通過時間」を提供し、お客さまの渋滞状況の把握や経路選択の最適化を支援します。 ※自然渋滞のみを提供対象とし、他に事象が発生している場合は、表示しないことがあります。



## ■ 『災害による交通管制システムの障害に備え、地区間の相互バックアップ機能を強化します。』

災害による障害発生時にも必要最低限の交通管制を継続するため、大阪地区と兵庫地区の交通管制システムを相互にバックアップします。(現行の交通管制システムは、各地区内でバックアップ) 交通管制センターでは大型フリーパネルにより、多彩な情報表示に対応した円滑な交通管制を行います。



阪神高速は、安全・安心・快適なネットワークを通じて、お客さまの満足を実現し、関西のくらしや経済の 発展に貢献します。